

何よりも子ども達の表情がいいですね。先生方がみんなにこやかです。

県教委の学校訪問がありました。

2時間目には、全校の授業を参観されました。1学級2分程度と大変短い時間での参観でしたが、本校児童の落ち着いた雰囲気、先生方の情熱、学校の取組について、大変よい評価をいただきました。

県教委義務教育課地域支援・人事班の山口市担当である原浩一郎主幹さんは、山口市での勤務が長いので、一緒に勤務したことのある先生も多く、懐かしかったことと思います。

原主幹さんからの指導内容です。

- ・何よりも子どもの表情がよい。みんな顔が上がっていて、学習に向かっている。
- ・学習規律がよいと聞いていたが、とても落ち着いていて感心した。
- ・児童の姿勢がよい。
- ・それらの良さを支えているのは、先生方だと強く感じる。
- ・先生方の熱い情熱を感じる。皆さんが授業を楽しんでいる感じがする。
- ・先生方がみんなにこやかで、子ども達も大変温かい雰囲気の中で授業を受けている。
- ・教室環境がとてもきれい。
- ・学校全体の運営、取組がとてもよい方向に進んでいる感じがする。
- ・地域連携が進みつつあるのを感じる。今日も地域のミシン学習支援も行われていた。先生方の地域連携意識も高まってきていることだろう。

市教委の右田副参事さんからも、

- ・児童の学びに向かう姿、学習規律が1学期に比べて、さらにグレードアップしている。
 - ・教室内外の整理整頓がとてもよい。
- 等の、言葉をいただきました。

ここまでの私たちの取組、頑張りに対し、賞賛の言葉をいただき大変うれしく思います。先生方の日々の取組のおかげです。本

当にありがとうございます。

引き続き、良城だからこそできること、しなければならないことについて、取組の本質を考えながら進めていきましょう。

一方で、以下の指摘もありました。

△不登校児童への対応に力を入れてほしい。
△全国学力状況調査の「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがあるか。」という質問項目での肯定的回答が、全平均に比べて3ポイント低い。今後、地域貢献学習等にも力を入れ、地域を愛し、地域のことを考える児童の育成に力を入れてほしい。

この2点の課題は指摘の通りです。今後、職員みんなで具体的に取組んでいきましょう。

火曜日から3日連続で、5年生のミシン学習に地域の「たんすの会」の皆さんの支援をいただきました。皆さんのとても温かい個別指導のおかげで、一人ひとりのミシン技能も上がりましたし、コミュニケーション力の育成という面でも、大変ありがたい支援でした。会の皆さんも、子ども達の元気に触れ、とても喜んでくださいました。

この取組は、前回の学校運営協議会での学力向上部会熟議の中から実現したものです。健康安全向上部会での竹馬遊びの取組も本格化していきます。

学校支援と地域の方々の生きがいの構築を両立するのが「やまぐち型地域連携教育」です。もっともっと吉敷地域の方々に頼り頼られる学校を目指して、地域と協同していきましょう。

